

西日本小学児童におけるアレルギー疾患有症率 調査 1992年と2002年の比較

出典 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)17巻3号 Page255-268(2003.08)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004038913>)

著者 太田 國隆 他

調査地域 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県、山口県、
沖縄県、兵庫県、香川県

調査時期 1992年 2002年

調査対象 小学生

依頼数 2002年 37,938人
回収数 2002年 36,232人(95.5%)
有効回答数 1992年 46,718人(男子:23,574人、女子23,144人)
2002年 36,228人(男子:18,264人、女子17,964人)

診断方法 ATS-DLD

有症率 1992年、2002年
気管支喘息: 4.60%(男5.62%、女3.57%)、6.54%(男8.10%、女4.95%)
喘鳴: 5.22%(男5.84%、女4.58%)、5.28%(男5.81%、女4.74%)
喘息寛解: 1.62%(男1.86%、女1.38%)、2.44%(男2.72%、女2.15%)

調査概要 西日本11県の同一小学校を対象に同一手法によるアレルギー疾患の有症率の
経年変化を調査した論文。都市部、中間部、非都市部の有症率に2002年では
差が無くなった。いずれかのアレルギー疾患を有する物は31.3%から34.1%
に増加した。

和歌山県日高郡中学1年生の2003年におけ るアレルギーに関する疫学調査

出典 日本耳鼻咽喉科学会会報(0030-6622)109巻10号 Page742-748(2006.10)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2007089942>)

著者 與田 茂利 他

調査地域 和歌山県日高郡の中学校(17校)

調査時期 2003年9月~11月(測定は2003年12月)

調査対象 中学1年生

依頼数 759人(男子389人、女子370人)
回収率 同意の得られた699人(92.1%)
有効回答数 —

診断方法 ISAAC、非特異的IgE抗体と特異的IgE抗体測定

有症率 既往有9.9人(69人)、現在症状有1.4%(10人)

調査概要 和歌山県の中学生を対象に有症率、感作率を検討した論文。喘息を11.3%、鼻
炎を37.9%、アトピー性皮膚炎を31.0%、アレルギー性結膜炎を26.2%に認め、
それらの児ではコナヒョウヒダニ、ハウスダストII、スギ、ペニシリウム、クラ
ドスポリウム、アスペルギルス抗体陽性が多かった。

男子 1982年:4.17%, 1992年:5.88%, 2002
 年:5.83%
 女子 1982年:3.62%, 1992年:4.58%, 2002
 年:4.80%
 気管支喘息+喘鳴有症率 1982年:7.07%, 1992年:9.82%, 2002年:11.82%
 男子 1982年:8.0%, 1992年:11.49%, 2002
 年:13.9%
 女子 1982年:6.11%, 1992年:8.11%, 2002
 年:9.71%

調査概要 西日本11県の同一小学校を対象に同一手法によるアレルギー疾患の有症率の
 経年変化を調査した論文。2002年の調査では気管支喘息は1982年から2.1倍、
 1992年の調査からは1.4倍の増加をしていた。

Surveys on the Prevalence of Pediatric Bronchial Asthma in Japan: A Comparison between the 1982, 1992, and 2002 Surveys Conducted in the Same Region Using the Same Methodology

出典 Allergy International (1323-8930) 58 巻 1 号 Page37-53 (2009. 03)
 (<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009251263>)

著者 Nishima Sankei 他

調査地域 福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、大分、宮崎、山口、沖縄、兵庫、香川

調査時期 1982年、1992年、2002年

調査対象 小学生 (6~12歳)

依頼数 2002年:37,036人
回収率 1982年:55,388人 (男子28,036人、女子27,352人)
 1992年:45,674人 (男子23,052人、女子22,622人)
 2002年:35,582人 (男子17,951人、女子17,631人、回収率96.1%)

有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD

有症率 気管支喘息有症率 1982年:3.17%, 1992年:4.58%, 2002年:6.51%
 男子 1982年:3.83%, 1992年:5.61%, 2002
 年:8.07%
 女子 1982年:2.49%, 1992年:3.53%, 2002
 年:4.91%
 喘鳴有症率 1982年:3.90%, 1992年:5.24%, 2002年:5.32%

北海道におけるアトピー性疾患に関する疫学調査

出典 小児保健研究(0037-4113)63巻4号 Page412-420(2004.07)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004299119>)

著者 大見 広規 他

調査地域 北海道

調査時期 2002年9~10月

調査対象 3歳児健康診査を受診した児

依頼数 7,735人
回収数 6,667人 (86.2%)
有効回答数 —

診断方法 独自の質問表

有症率 喘息診断の既往:657人(9.9%)
3歳児健診時に症状あり:392人(5.9%)

調査概要 3歳児健診を受診した児を対象とした調査。30.2%の児がアトピー性疾患の診断を受けていた。そのうち32.6%が気管支喘息、58.7%がアトピー性皮膚炎、22.0%が食物アレルギー、21.2%がアレルギー性鼻炎であった。

埼玉県における15歳以下のアレルギー性疾患 と生活環境に関する調査

出典 小児保健研究(0037-4113)64巻5号 Page676-686(2005.09)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2006036833>)

著者 生嶋 昌子 他

調査地域 埼玉県

調査時期 2002年8月

調査対象 0~15歳(7.2±4.5歳)の小児

依頼数 3,000世帯
回収率 —
有効回答数 2,368世帯の世帯構成員全員:7,395人(78.9%)
このうち15歳以下の1,539人(20.8%)で解析

診断方法 ATS-DLD

有症率 喘息・喘息性気管支炎有症率:20.1%
年齢別:6歳までの年齢で上昇傾向にあり、6歳が32.2%、
7歳以降徐々に減少傾向
年齢階級別:0~4歳13.5%、5~9歳24.8%、10~14歳21.9%
(有意差を認めた $p < 0.01$)
男子:25.7%、女子14.2% (男子に有症率が高い傾向)
交通量の多い道路がある群:26.1%、ない群:18.7%

調査概要 埼玉県の世帯調査からの論文。喘息20.1%、アトピー性皮膚炎20.7%、鼻炎18.0%、アレルギー性結膜炎11.7%、花粉症10.3%に認めた。結膜炎以外の疾患で、男児が有意に高かった。

3歳児健診よりみた乳幼児アレルギー疾患の疫学

出典 日本小児科学会雑誌(0001-6543)108巻11号 Page1358-1365(2004.11)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005067690>)

著者 楠 隆 他

調査地域 京都市伏見保健所の管轄内

調査時期 2001年6月~2002年5月

調査対象 3歳児健康診査を受診した児

依頼数 2,594人
回収数 1,054人
有効回答数 1,014人 (39.1%)

診断方法 93年厚生省アレルギー総合研究疫学班作成の学童用調査票を基に一部改変

有症率 喘息 現症者37人 3.6%、既往者1人
喘鳴 現症者93人 9.1% 既往者26人

調査概要 3歳児健診を受診した児を対象とした有症率調査。アトピー性皮膚炎既往者は3歳時点での喘息発症の頻度が1.7倍であり、早期からの保育園通園者は喘息、鼻炎罹患率が有意に高かった。

香川県西讃地区小学生児童の気管支喘息有症率 調査 1995年,1998年,2001年の比較検討

出典 小児保健研究(0037-4113)64巻2号 Page322-327(2005.03)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005189581>)

著者 島内 泰宏 他

調査地域 香川県西讃地区

調査時期 1995年,1998年,2001年

調査対象 小学生

依頼数 1995年:9,514人, 1998年:8,737人, 2001年:8,064人
回収数 1995年:95.9%、 1998年:94.5%、 2001年:96.5%
(男女比はほぼ1:1)

有効回答数 ー

診断方法 ATS-DLD+最近1年間での発作の有無を問うISAAC方式

有症率 気管支喘息有症率 1995年:7.79% 男子8.89%、女子6.65%
1998年:7.50% 男子8.87%、女子6.12%
2001年:8.93% 男子10.50%、女子7.33%
2001年の有症率は1995年、1998年と比較して有意に高かった。
気管支喘息現症率 1995年:4.60% 男子5.36%、女子3.82%
1998年:4.40% 男子5.12%、女子3.69%
2001年:5.45% 男子6.57%、女子4.33%
2001年の現症率は1995年、1998年と比較して有意に高かった。
気管支喘息改善率 小学校1~3年生 32~39%、
小学校4~6年生 42~48%

調査概要 香川県讃岐地区の同一小学校での気管支喘息有症率の経年変化を追った論文。有症率は年度ごとに上昇しており、立地条件からは大気汚染の影響も推測された。

3歳児の喘息様症状の有症率とそれに 関連する諸因子の評価

出典 東京女子医科大学雑誌(0040-9022)71巻9~10 Page679-690(2001.09)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2002109202>)

著者 渡邊 喜代子 他

調査地域 東京都杉並区内のN保健所

調査時期 1993年11月~1994年10月

調査対象 3歳児健診を受診した児

依頼数 790人
回収数 —
有効回答数 669人 (87.7%) (男子349人、女子320人)

診断方法 ATS-DLD78、環境省作成の質問表

有症率 喘息様症状 51人 7.6%
(男子30人 8.6% 女子21人 6.6%)

調査概要 3歳児健診を受診した児を対象とした喘息有症率と関連因子の調査による論文。
アレルギー疾患の家族歴、他のアレルギー疾患、肺炎、気管支炎の既往を持つもの
に、高率であった。

山形県内におけるアレルギー症状有訴者 の実態調査

出典 山形県衛生研究所報(0513-4706)34号 Page61-64(2001.12)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2002099069>)

著者 山口 始 他

調査地域 山形県山形市

調査時期 2000年

調査対象 小学生、中学生

依頼数 —
回収数 579人 (男子291人、女子288人)
小学生391人 (男子188人、女子203人)
中学生188人 (男子103人、女子85人)

有効回答数 —

診断方法 独自の質問表

有症率 全体89人 15.4%
小学生75人 (19.2%) 中学生14人 (7.4%)
男子49人 (16.8%) 女子40人 (13.9%)

調査概要 山形県内の小中学生を対象に有症率を調査した論文。喘息の有症率に男女差は
認めなかった。花粉症の有症率は29.4%で7年前に同一小学校で行った調査
と同じ有症率であった。

川口・鳩ヶ谷市内小学生のアレルギー性疾患の有 病率と大気汚染の関係についての検討

出典 アレルギー(0021-4884)47巻11号 Page1190-1197(1998.11)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1999091748>)

著者 大山 昇一 他

調査地域 埼玉県川口市、鳩ヶ谷市

調査時期 1996年5~6月

調査対象 小学生

依頼数 29,274人 川口市26,123人、鳩ヶ谷市3,151人

回収数 25,613人 (87.5%)

有効回答数 —

診断方法 川口医師会小児科部会で作成した質問表

有症率 現症、既往両方含む) 13.5% 男女比 1.52
過去2年以内に喘息発作を認めた者 5.8% 男女比 1.52
気管支喘息の発病年齢(過去2年以内に喘息発作を認めた者)
1歳未満:7.9%、
1歳以上3歳未満:45.3%、
3歳以上6歳未満:31.7%、
6歳以上:14.2%

調査概要 川口市鳩ヶ谷市の小学生の有症率と大気汚染について調査した論文。アレルギー性疾患有症率と大気汚染物質の濃度には相関は認めず、人口密度とに緩やかな相関を認めた。

和歌山県下中学1年生のIgE抗体陽性率

出典 耳鼻咽喉科展望(0386-9687)42巻2号 Page183-187(1999.04)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1999203363>)

著者 榎本 雅夫 他

調査地域 和歌山県

調査時期 1997年10~11月

調査対象 3~6歳

依頼数 918人(男子460人、女子458人)

回収数 —

有効回答数 —

診断方法 独自の質問表、採血検査

有症率 20.1%(179人/892人)

調査概要 和歌山県の中学1年生を対象に問診と採血を行った調査。アトピー性皮膚炎を29.1%、気管支喘息を20.1%、アレルギー性鼻炎花粉症を18.1%に認めた。ダニIgE陽性を41.4%にスギIgE陽性を36.4%に認めた。

京都市小・中学生におけるアレルギー疾患 疫学調査

出典 アレルギー(0021-4884)46巻10号 Page1025-1035(1997.10)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1998067472>)

著者 細井 進 他

調査地域 京都府京都市

調査時期 1996年6月～9月

調査対象 小学生、中学生

依頼数 17906人
回収数 16176人(90.3%)
有効回答数 95.7%

診断方法 厚生省アレルギー疾患調査票(子供用)

有症率 4.5% (小学生4.9%、中学生3.5%)
男女比1.6男児に多い

調査概要 京都市の小中学生を対象に行われた有症率調査。厚生省アレルギー総合研究事業疫学班により統一調査のため日本で初めて調査票を作成し調査されたもの。

ISAAC(International Study of Asthma and Allergies in Childhood)第I相試験における 小児アレルギー疾患の有症率

出典 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)16巻3号 Page207-220(2002.08)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003040155>)

著者 西間 三警 他

調査地域 福岡県福岡市

調査時期 1995年

調査対象 小学1年生、中学2年生

依頼数 6～7歳: 36校 3,137人、
13～14歳: 14校 3,004人

回収数 6～7歳: 2,901人(91.4%、男子1,464人、女子1,437人)
13～14歳: 2,831人(94.2%、男子1,452人、女子1,379人)

有効回答数 ー

診断方法 ISAACとビデオによる調査(ビデオ調査は中学生のみ)

有症率 6～7歳、13～14歳

喘鳴(既往):	33.7%、26.8%
喘鳴(現症):	17.3%、13.4%
1年間の発作なし:	0.1%、5.2%
夜間睡眠障害1回/週以上:	1.2%、0.6%
会話困難な重症喘鳴:	1.8%、2.1%
医師の診断(累積):	18.2%、18.9%
運動時の喘鳴:	5.3%、27.3%
夜間の咳嗽:	9.5%、14.0%

調査概要 ISAACにより全世界で行われた第I相試験の日本のセンターの結果報告。6～7歳では喘息17.3%、アレルギー性鼻結膜炎25.6%、アトピー性皮膚炎21.3%、13～14歳では各々、13.4%、41.0%、13.5%であった。

中学2年生	1995年、	2002年
喘鳴（既往）：	26.8%、	39.6%
1年以内の喘鳴：	13.4%、	13.0%
1年間の発作なし：	5.2%、	13.6%
夜間睡眠障害あり：	3.3%、	3.2%
会話困難な重症喘鳴：	2.1%、	1.5%
医師による診断の既往：	18.9%、	19.9%
運動時の喘鳴：	27.3%、	23.5%
夜間の咳嗽：	14.0%、	14.2%

調査概要 ISSACにより全世界で行われた第I相試験による論文。世界と比較し、喘息、アレルギー性鼻炎は平均より高率であり、アジアで最も高かった。

【気管支喘息とアレルギー性鼻炎との関係】

ISAAC studyによる気管支喘息とアレルギー性鼻炎の疫学的な調査

出典	アレルギー・免疫(1344-6932)10巻10号 Page1282-1292(2003.09) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2004069149)		
著者	久保田 典里子 他		
調査地域	福岡市の無作為抽出された小学校36校、中学校14校		
調査時期	1995年		
調査対象	小学1年生、中学2年生		
依頼数	小学1年生：3,137人、中学2年生：3,004人		
回収数	小学1年生：2,901人（男子：1,464人、女子：1,437人）：91.4% 中学2年生：2,831人（男子：1,452人、女子：1,379人）：94.2%		
有効回答数	—		
診断方法	ISAAC		
有症率	小学1年生	1995年、	2002年
	喘鳴（既往）：	33.7%、	35.7%
	喘鳴（現症）：	17.3%、	17.9%
	1年間の発作なし：	0.1%、	5.9%
	夜間睡眠障害あり：	5.5%、	6.3%
	会話困難な重症喘鳴：	1.8%、	1.7%
	医師による診断の既往：	18.2%、	22.7%
	運動時の喘鳴：	5.3%、	5.1%
	夜間の咳嗽：	9.5%、	12.9%

アレルギー疾患の疫学調査 アトピー性皮膚炎は減少している・姫路市の小学新入生調査から

出典 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)28巻1号 Page50-57(2014.03)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2014224004>)

著者 黒坂 文武 他

調査地域 兵庫県姫路市

調査時期 1995~2010年

調査対象 新1年生

依頼数 毎年約5000名
回収率 99%以上
有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD

有症率 1995年4.8%
1999年5.2%
2005年3.8%
2007年4.6%
2010年4.4%

調査概要 姫路市の小学新入生を対象に毎年行われている調査からの論文。有症率の変化は、気管支喘息はやや減少、アトピー性皮膚炎は減少、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症は増加した。

Prevalence of asthma, rhinitis and enzema among 13-14-year-old schoolchildren in Tochigi, Japan

出典 Allergology International(1323-8930)49巻3号 Page205-211(2000.09)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2001015004>)

著者 Sugiyama Kumiya 他

調査地域 栃木県宇都宮市、栃木市

調査時期 1995年9月~1996年3月

調査対象 中学1年生

依頼数 4,466人(宇都宮市 3,157人、栃木市 1,309人)
回収数 —
有効回答数 男子2,219人、女子2,221人、性別不明:26人(99.4%)

診断方法 ISAAC

有症率 喘鳴(既往):18.8% 男子:20.3%、女子:17.2%
喘鳴(現症):8.4% 男子:8.8%、女子:6.9%
週1回以上の夜間睡眠障害:0.5% 男子:0.6%、女子:0.4%
重症な喘鳴:1.3% 男子:1.4%、女子:1.2%
医師の診断:12.0% 男子:13.9%、女子:10.3%
運動後の喘鳴:11.3% 男子:11.4%、女子:11.2%
夜間の咳嗽:5.7% 男子:6.3%、女子:5.3%

調査概要 宇都宮市、栃木市の中学生を対象としたISSAC phase I studyによる調査結果。33.3%の児に何らかのアレルギー症状を認めた。そのうち2.4%は重症だった。

3 歳児の喘息様症状の危険因子の評価 に関する研究

出典 病態生理 (0286-2190) 14 巻 6 号 Page489-491 (1995. 06)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1996013872>)

著者 渡辺 喜代子 他

調査地域 東京都杉並区

調査時期 1993 年 11 月～1994 年 10 月

調査対象 保健所にて 3 歳健診を受けた児

依頼数 790 人

回収数 669 人 (87. 7%)

有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD 独自改変

有症率 7. 6% (男児 8. 6%、女児 6. 6%)

調査概要 3 歳児健診において喘息の有症率と憎悪因子を調査した論文。アレルギー疾患の家族歴、他のアレルギー疾患合併、下気道感染の既往のある児に多く、家庭内喫煙者、暖房器具の種類による有症率の差は見られなかった。

岐阜県下一小学校における気管支喘息有症率 調査

出典 Progress in Medicine (0287-3648) 21 巻 6 号 Page1529-1533 (2001. 06)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2002038532>)

著者 古井 秀彦 他

調査地域 岐阜県

調査時期 2000 年 7 月

調査対象 小学校 1～6 年生

依頼数 336 人 (男子 169 人、女子 167 人)

回収数 —

有効回答数 323 人 (96. 1%)

診断方法 ATS-DLD

有症率 24 人 7. 4% 男子 8. 8%、女子 6. 1%

寛解率 13 人 4. 0% 男子 5. 0%、女子 3. 0%

調査概要 岐阜県の 1 つの小学校において ATS-DLD を使用し行われた調査。学年が高くなるにつれて、女子では有症率が低下し寛解軍に移行していたが、男子では変わらなかった。

西日本小学児童のアレルギー疾患罹患率調査

出典 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)7巻2号 Page59-72(1993.05)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1994037352>)

著者 西日本小児気管支喘息研究会・罹患率調査研究班

調査地域 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、
山口県、兵庫県、香川県

調査時期 1982年

調査対象 小学生

依頼数 55388人
回収数 —
有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD

有症率 3.17% (男3.83%女2.49%)

調査概要 西日本11県の小学校を対象にアレルギー疾患の有症率を調査した論文。乳児
期栄養、暖房、冷房の種類では有症率に有意差を認めなかった。

西日本小学児童の気管支喘息罹患率調査 同一地 区, 同一手法における1982年1992年の比較

出典 アレルギー(0021-4884)42巻3-1 Page192-204(1993.03)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1994076549>)

著者 西日本小児気管支喘息研究会・罹患率調査研究班

調査地域 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、山口県、
沖縄県、兵庫県、香川県

調査時期 1992年

調査対象 小学生

依頼数 47321人
回収数 45804人(96.8%)
有効回答数 45674人

診断方法 ATS-DLD

有症率 4.6% (男5.6%女3.5%)

調査概要 西日本11県の小学校を対象にアレルギー疾患の有症率の経年変化を調査した
論文。1992年は1982年に比べ、学年差、地域差は減少していた。

Reliability of a questionnaire used to survey allergic disease in school.

出典 J Epidemiol. 1996 Mar;6(1):23-30.
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/8795954>)

著者 Shiraishi Y 他

調査地域 静岡県

調査時期 1990、1992 年

調査対象 小学生、中学生、高校生、

依頼数 —

回収率 1990 年 : 49419 人
1992 年 : 2669 人

有効回答数 1990 年と 1992 年の両方の調査に参加した 2291 人

診断方法 独自の質問票

有症率
喘息既往 全体 0.961%
(小学生:0.927%、中学生:0.960%、高校生:0.957%、男性 0.956%、女性 0.966%)
医師に喘息と診断された既往 全体 0.669%
(小学生:0.679%、中学生:0.662%、高校生:0.671%、男性 0.620%、女性 0.743%)

調査概要 静岡県の小学校、中学校、高校で行われた有症率調査。21 の質問票を使用し、各質問の有用性も評価されている。

Prevalence of and risk factors for allergic diseases: comparison of two cities in Japan.

出典 Ann Allergy Asthma Immunol. 1995 Dec;75(6 Pt 1):525-9.
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/8603284>)

著者 Hayashi T 他

調査地域 岐阜県岐阜市、沖縄県糸満市

調査時期 1991 年 3 月

調査対象 幼稚園、小学校、中学校に通う 16 歳未満の児

依頼数 岐阜県 1835 人 (生後 3 ヶ月~15 歳)
沖縄県 2194 人 (生後 6 ヶ月~15 歳)

回収率 岐阜県 67.7% (1243 人)
沖縄県 89.0% (1953 人)

診断方法 ATS-DLD

有症率	岐阜市	糸満市
アレルギー全般	30.5%	19.1%
気管支喘息	2.5%	4.4%
ぜいぜいする気管支炎	2.3%	2.3%
アトピー性皮膚炎	17.3%	3.4%
蕁麻疹、アレルギー性鼻炎		
もしくはアレルギー性結膜炎	10.7%	9.8%

調査概要 岐阜県、沖縄県でアレルギー疾患の有症率の比較を行った論文。気管支喘息は岐阜県より沖縄県で高かった。天候、食習慣、大気汚染の影響が考えられた。

Comparison of allergic diseases and specific IgE antibodies in different parts of Japan.

出典 Ann Allergy. 1994 May;72(5):447-51.
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/8179232>)

著者 Agata H 他

調査地域 沖縄県糸満市、岐阜県岐阜市

調査時期 1990年4月～1991年3月

調査対象 生後6ヶ月～12歳(糸満市)
生後3ヶ月～12歳(岐阜市)

依頼数 1792人(糸満市)
1436人(岐阜市)

回収率 1424人(79.5%)(糸満市)
1332人(92.8%)(岐阜市)

診断方法 ATS-DLD

有症率 喘息あるいは喘鳴性気管支炎
糸満市:9.2% 岐阜市:6.3%
アトピー性皮膚炎
糸満市:3.1% 岐阜市:19.3%

調査概要 岐阜県、沖縄県でアレルギー疾患の有症率の比較を行った論文。気管支喘息は岐阜県より沖縄県で高かったが、アトピー性皮膚炎は岐阜県で高かった。吸入抗原に対するIgEは沖縄県で高く、卵、乳、大豆の食物抗原に対するIgEは岐阜県で高かった。

長崎県五島地区のアレルギー疾患の実態

出典 小児保健研究(0037-4113)51巻3号 Page361-364(1992.05)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1993126127>)

著者 石橋 俊秀 他

調査地域 長崎県上五島地区

調査時期 1990年10月

調査対象 小学生、中学生

依頼数 4550人
回収数 3795人(83.4%)(小学生2380人、中学生1415人)
有効回答数 ー

診断方法 ATS-DLD

有症率 小学生8.0%、中学生6.3%

調査概要 長崎県の離島上五島地区での小中学生のアレルギー疾患の有症率を検討した論文。男児優位に喘息、アレルギー性鼻炎を認め、喘息の寛解率は高率であったが、他疾患は低かった。

加古川市小学1年児童の気管支喘息罹患率調査

出典 兵庫県医師会医学雑誌(0910-8238)37巻2号 Page53-57(1994.10)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1995112465>)

著者 黒田 英造 他

調査地域 兵庫県加古川市

調査時期 1992年

調査対象 小学1年生

依頼数 3002人
回収数 2985人(99.4%)
有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD

有症率 3.85% (男4.75%女2.89%)

調査概要 加古川市内の全小学校の1年生を対象に調査された論文。工場地域より農業林業地域、アレルギー疾患の家族歴、2歳までの呼吸器感染歴のある児に有意であった。

気管支喘息と環境要因に関する研究 八王子市 市立小学校喘息児童の調査報告

出典 日本医事新報(0385-9215)3341号 Page43-48(1988.05)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/1989002845>)

著者 吉田 敏久 他

調査地域 東京都八王子市

調査時期 1985年

調査対象 小学生1~5年生

依頼数 31903人のうち保健調査票に喘息、喘息性気管支炎、慢性気管支炎、アレルギー性気管支炎などの気管支喘息を疑わ病名記載のある1712人
回収数 1679人(98%)
有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD

有症率 2.7%

調査概要 八王子市内の小学校で保健調査票、ATS-DLDを使用し有症率、喘息日誌による関連因子を調べた論文。新興団地を持つ小学校で有症率が高かった。

気管支喘息の疫学 小児気管支喘息の有症率

出典	喘息(0914-7683)8巻2号 Page13-16(1995.04) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/1995216953)
著者	古庄 巻史 他
調査地域	1971年 福岡県北九州市 1981年、1991年 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、 鹿児島県、沖縄県、山口県、兵庫県、香川県
調査時期	1971年、1981年、1991年
調査対象	小学生
依頼数	1971年 94029人、1981年 57761人、1991年 48548人
回収数	1971年 86551人(回答率92.0%、1981年 55419人(回収率95.9%) 1991年 46848人(回収率96.5%)
有効回答数	—
診断方法	ATS-DLD
有症率	1971年 定型喘息 1432人(1.65%) 非定型喘息 1402人(1.26%) 1981年 3.17% (男3.83%女2.49%) 1991年 4.6% (男5.62%女3.57%)
調査概要	10年間隔で3回行われた罹患率調査についての論文。年毎に罹患率は増加しており、都市部に住む児に高率に認めた。しかし、少子化の影響から絶対数は減少している。

学童のぜん息様症状の有症率と環境諸因子

との関連の評価

出典	アレルギー(0021-4884)50巻8号 Page657-666(2001.08) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2002038558)
著者	野原 理子 他
調査地域	神奈川県横浜市
調査時期	1986年、1988年、1991年
調査対象	小学校1~6年生
依頼数	1986年 4705人 1988年 4440人 1991年 4161人
回収数	1986年 96.9% 1988年 94.3% 1991年 94.1%
有効回答数	ほぼ80%
診断方法	ATS-DLD
有症率	1986年 男9.2% 女5.7% 1988年 男9.1% 女4.8% 1991年 男9.6% 女5.7%
調査概要	横浜市内の3地区の学童を対象にATS-DLDを使用し経年変化を追った論文。男児に多く認め、男児ではわずかに増加傾向、女児では横ばいであった。

島根県都市部における学齢期小児の気管支喘息 罹患率の年代的推移

出典	島根医学(0559-829X)8巻1号 Page33-35(1988.07) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/1989098542)
著者	芦沢 隆夫 他
調査地域	島根県松江市、出雲市
調査時期	1977年、1984年
調査対象	小学生、中学生
依頼数	1977年小学生1200人、 1984年小学1.4年生、中学1年生517人
回収数	1977年100%、1984年96.3%
有効回答数	—
診断方法	独自の質問表
有病率	1977年3.0%、男女比1.85:1 1984年7.0%、男女比1.71:1
調査概要	島根県都市部の小中学校での罹患率調査。男児に多く認めていたが、7年間で男女差は減少し、罹患率は2.3倍に増加した。

Comparison of respiratory symptoms between schoolchildren in China and Japan

出典	Allergology International(1323-8930)50巻4号 Page303-309(2001.12) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2002109233)
著者	Kagawa Jun 他
調査地域	神奈川県横浜市
調査時期	1991年
調査対象	小学1~6年生
依頼数	4,161人
回収数	94.1%
有効回答数	—
診断方法	ATS-DLD78
有病率	喘息様症状 9.6% 男子:9.6%、女子:5.7% 喘鳴 13.8% 男子:13.8%、女子:9.1%
調査概要	中国と日本(横浜市)の呼吸器症状の有症率を比較した論文。呼吸器症状は日本に有意に高く認めた。今後は中国の大気汚染の拡大により日本の有症率に近づくことが予想されている。

Trends in Asthma Morbidity and Mortality in Japan between 1984 and 1996

出典 Journal of Epidemiology (0917-5040) 12 巻 3 号 Page217-222 (2002. 05)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2003141783>)

著者 Tanihara Shinichi 他

調査地域 全国

調査時期 1984~1996 年

調査対象 全年齢

依頼数 —
回収数 —
有効回答数 —

診断方法 患者調査と人口動態調査

有症率 1996 年 0~9 歳男 3.5%女 0.4% 10~24 歳男 0.8%女 0.6% 他

調査概要 年代別の有症率、致死率の変化についての論文。全体の有症率は増加している。年代別では、10~24 歳、25~44 歳の群で有症率は増加しているが、残りの群では減少を認めた。致死率は 1987 年がピークであった。

Age-Period-Cohort Analysis of Asthma Prevalence among School Children

出典 Environmental Health and Preventive Medicine (1342-078X) 12 巻 3 号
Page119-128 (2007. 05)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2012272639>)

著者 Okamoto Etsuji 他

調査地域 全国

調査時期 1984~2004 年

調査対象 文部科学省の学校保健統計調査結果より解析

依頼数 —
回収率 —
有効回答数 —

診断方法 学校保健統計調査

有症率	男子	1984 年、	2004 年	女子	1984 年、	2004 年
6 歳 :	1.05%、	4.13%		0.66%、	2.60%	
7 歳 :	1.05%、	3.86%		0.79%、	2.51%	
8 歳 :	0.94%、	3.75%		0.60%、	2.31%	
9 歳 :	1.06%、	3.71%		0.68%、	2.20%	
10 歳 :	1.01%、	3.60%		0.68%、	2.29%	
11 歳 :	0.99%、	3.57%		0.69%、	2.10%	
12 歳 :	0.98%、	3.42%		0.60%、	2.02%	
13 歳 :	0.80%、	2.75%		0.47%、	1.72%	
14 歳 :	0.62%、	2.54%		0.50%、	1.87%	
15 歳 :	0.40%、	1.94%		0.33%、	1.37%	
16 歳 :	0.26%、	1.66%		0.22%、	1.17%	
17 歳 :	0.28%、	1.31%		0.16%、	1.24%	

調査概要 1984~2004 年の 30 のバースコホートによる気管支喘息の有症率調査より、統計学的解析により、先の有症率を予想した論文。解析により近い未来においてはさらなる有症率の増加が予想された。

西日本小学児童の気管支喘息罹患率調査

出典	アレルギー 32(10), 1063-1072, 1983-10-30
著者	大井田 隆 他
調査地域	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県、山口県、 兵庫県、香川県
調査時期	1982 年
調査対象	小学生
依頼数	57761 人
回収数	95.9%
有効回答数	55388 人
診断方法	ATS-DLD
有症率	3.2%
調査概要	西日本 11 県の小学校を対象にアレルギー疾患の有症率を調査した論文。喘息の罹患率は全体で 3.17%であり、家族内喫煙のある群に多く認めた。

福知山市における小学生児童の喘息実態調査

出典	京都医学会雑誌 (0453-0039) 32 巻 2 号 Page49-56 (1985. 11) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/1986201437)
著者	人見 洋一 他
調査地域	京都府福知山市
調査時期	1982 年
調査対象	小学生
依頼数	6420 人
回収数	6298 人 (98.1%)
有効回答数	—
診断方法	独自の質問表 (保護者の申告)
有症率	14.8% (男 16.1%女 11.0%)
調査概要	福知山市内の全小学校で行われた有症率調査。喘息の既往のある児は京都で 1.81%であったが、福知山では 13.9%と多く認めた。原因ははっきりしなかった。

秋田県小児気管支喘息の実態(第1報)

小・中学校の喘息実態調査

出典	日本農村医学会雑誌(0468-2513)32巻5号 Page964-968(1984.01) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/1985018547)
著者	佐々木 志保子 他
調査地域	秋田県
調査時期	1981年7月
調査対象	小学生、中学生
依頼数	小学生 105137人、中学生 51029人
回収数	小学校 365校 (98.4%) 中学校 151校 (100%)
有効回答数	—
診断方法	独自の質問表(養護教諭が記載)
有症率	小学校 1.2% (男 1.5% 女 0.9%) 中学校 0.6% (男 0.8% 女 0.5%)
調査概要	秋田県内の全小中学生を対象に行こなわれ、教員(主として養護教諭)が記載した調査。喘息有病率は全体で1%であり、県内には1627名の喘息生徒がいた。

小児気管支喘息の臨床疫学(第1報)

大島におけるアレルギー疾患実態調査

出典	アレルギー(0021-4884)32巻3号 Page138-148(1983.03) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/1984044301)
著者	井上 和子 他
調査地域	東京都大島町
調査時期	1981年9月
調査対象	大島在住の全保育園、小中学生と、保健所、診療所を受診した乳児
依頼数	保育園児、小学生、中学生 1977人と2~3歳児 302人
回収数	保育園、小学校、中学校の 1695人 (85.7%)と2~3歳児 125人 (41.4%)
有効回答数	—
診断方法	独自の質問表+医師の診察 (アレルギー疾患スクリーニング用アンケートを行い、そのうち気管支喘息の症状のある者に診察)
有症率	1次アンケート 9.5%、 診察 6.8% 2~5歳 男子 7.8%、女子 6.5% 6~8歳 男子 5.8%、女子 3.1% 9~11歳 男子 5.5%、女子 2.3% 12~15歳 男子 4.2%、女子 3.4%
調査概要	大島在住の全保育園、小中学生と、保健所、診療所を受診した乳児を対象にした調査。有症率は9.5%であり、家族の喘息歴と相関が高く、他地域より高率であることは、定住性による環境因子、知識の不足が関係していると考えられた。

1998年 : 4.35%	男子 5.83%、女子 2.95%
1999年 : 4.18%	男子 6.67%、女子 1.89%
2001年 : 4.71%	男子 4.42%、女子 5.12%
2003年 : 6.72%	男子 7.09%、女子 6.28%
2004年 : 4.11%	男子 5.98%、女子 2.12%
2005年 : 5.60%	男子 6.99%、女子 3.95%
2006年 : 4.31%	男子 5.17%、女子 3.33%

調査概要

福岡市内の同一小学校を対象に同一手法によるアレルギー疾患の有症率の経年変化を調査した論文。累積喘息罹患率は増加しており、男児に高かった。喘鳴の指摘後に喘息へ移行した児では IgE 値が高く、末梢気道の狭窄傾向がみられた。

福岡市内の経年的疫学調査

出典 日本小児アレルギー学会誌(0914-2649)21巻5号 Page739-742(2007.12)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2008171760>)

著者 小田嶋 博 他

調査地域 福岡市内の3地区の5つの小学校

調査時期 1981~2006年(1997年、2000年、2002年を除く)

調査対象 小学生

依頼数 —

回収率 —

有効回答数 —

診断方法 ATS-DLD

有症率	1981年 : 5.15%	男子 7.58%、女子 3.90%
	1982年 : 5.63%	男子 7.30%、女子 3.97%
	1983年 : 4.59%	男子 5.63%、女子 3.25%
	1984年 : 3.94%	男子 4.55%、女子 3.19%
	1985年 : 4.59%	男子 5.82%、女子 3.33%
	1986年 : 5.67%	男子 7.58%、女子 3.90%
	1987年 : 6.30%	男子 7.89%、女子 4.84%
	1988年 : 5.35%	男子 6.14%、女子 4.53%
	1989年 : 5.44%	男子 7.02%、女子 3.86%
	1990年 : 5.10%	男子 7.46%、女子 2.85%
	1991年 : 5.42%	男子 7.25%、女子 3.61%
	1992年 : 5.73%	男子 7.07%、女子 4.15%
	1993年 : 5.04%	男子 8.40%、女子 1.88%
	1994年 : 5.43%	男子 6.33%、女子 4.62%
	1995年 : 8.35%	男子 9.42%、女子 7.27%
	1996年 : 5.38%	男子 6.87%、女子 3.88%